

# 島根大学37症候学チュートリアル ～2年目でみえてきた課題と挑戦～



山口柁<sup>1</sup> 小田川誠治<sup>2,3</sup> 遠藤健史<sup>3,4</sup> 高木創志<sup>1</sup> 田中千裕<sup>1</sup> 田部主山<sup>1</sup> 花田拓真<sup>1</sup> 宮田菜穂<sup>1</sup>  
片桐徳貴<sup>1</sup> 辻拓弥<sup>1</sup> 床並亜有子<sup>1</sup> 廣山幸音<sup>1</sup> 坂口公太<sup>3</sup> 和足孝之<sup>3</sup> 白石吉彦<sup>3</sup>

<sup>1</sup>島根大学医学部医学科 <sup>2</sup>島根県立中央病院 地域総合医育成科  
<sup>3</sup>島根大学医学部附属病院 総合診療医センター <sup>4</sup>町立奥出雲病院 総合診療科

## まとめ

症候学授業の理解の深まりと満足度の低下の原因は講義形式にあった。  
今までの講義形式はOutput型学習と双方向性の学習が限定的であり、改善が求められる。

## 背景

島根大学医学部では、臨床実習前の4年生に対し症候学の講義を行っている。2021年度からは学外総合診療医（以下、総合医）のサポートのもと上級生がチューターとなり、各症候について2-3人のグループがプレゼンテーションするOutput型の形式をとった。Near-Peer Tutoringの手法を用いた試みであり、JPCA2022ではこの取り組みを紹介したが、2年目となる今回は、本形式による知識定着、学生の満足度を評価した。

## 授業の流れ

### E. 臨床推論

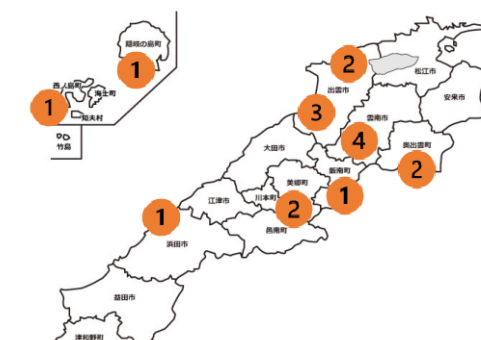
(注) 以下に示す37の症候・病態について臨床推論ができる。  
発熱/全身倦怠感/食思(欲)不振/体重増加・体重減少/ショック/心停止/意識障害・失神/  
けいれん/めまい/脱水/浮腫/発疹/咳・痰/血痰/咯血/呼吸困難/胸痛/動悸/嚔下困難・陣  
害/腹痛/悪心・嘔吐/吐血・下血/便秘・下痢/黄疸/腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍/貧血/リ  
ンパ節腫脹/尿量・排尿の異常/血尿・尿蛋白/月経異常/不安・抑うつ/もの忘れ/頭痛/運  
動麻痺・筋力低下/ 腰背部痛/関節痛・関節腫脹/外傷・熱傷

▲Post-Clinical Clerkship OSCEで  
臨床推論が求められる37症候



- 2022年11-12月開講 (CBT/OSCE受験後・臨床実習前)
- 37症候について2-3人のグループに分け発表するoutput形式
- 60分で1症候を発表

- チューター 5・6年生 10名
- 総合医 13名



島根県

▲医師分布：○内は人数

## 講義前テスト

目的：講義前後の知識の定着を定量する

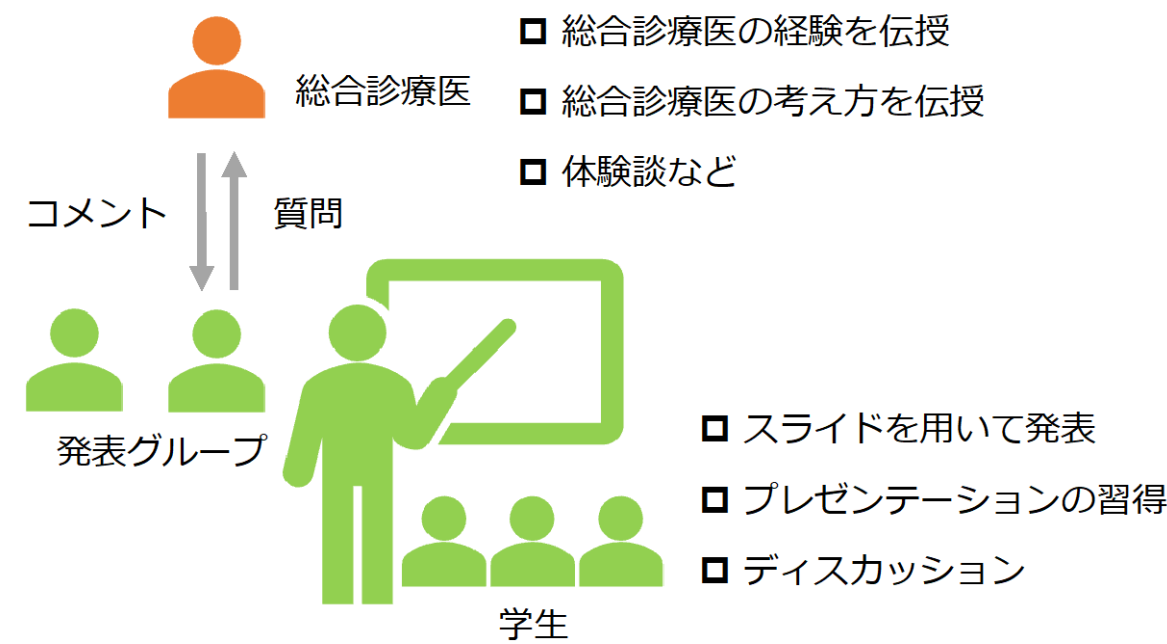
- 医師国家試験（第111回～第115回）過去問題から、症候学の知識を問う20題
- 正答率70-90%程度の問題
- 1題5点、合計100点で評価する

## スライド作成 発表・聴講

### スライド作成



### 発表+聴講



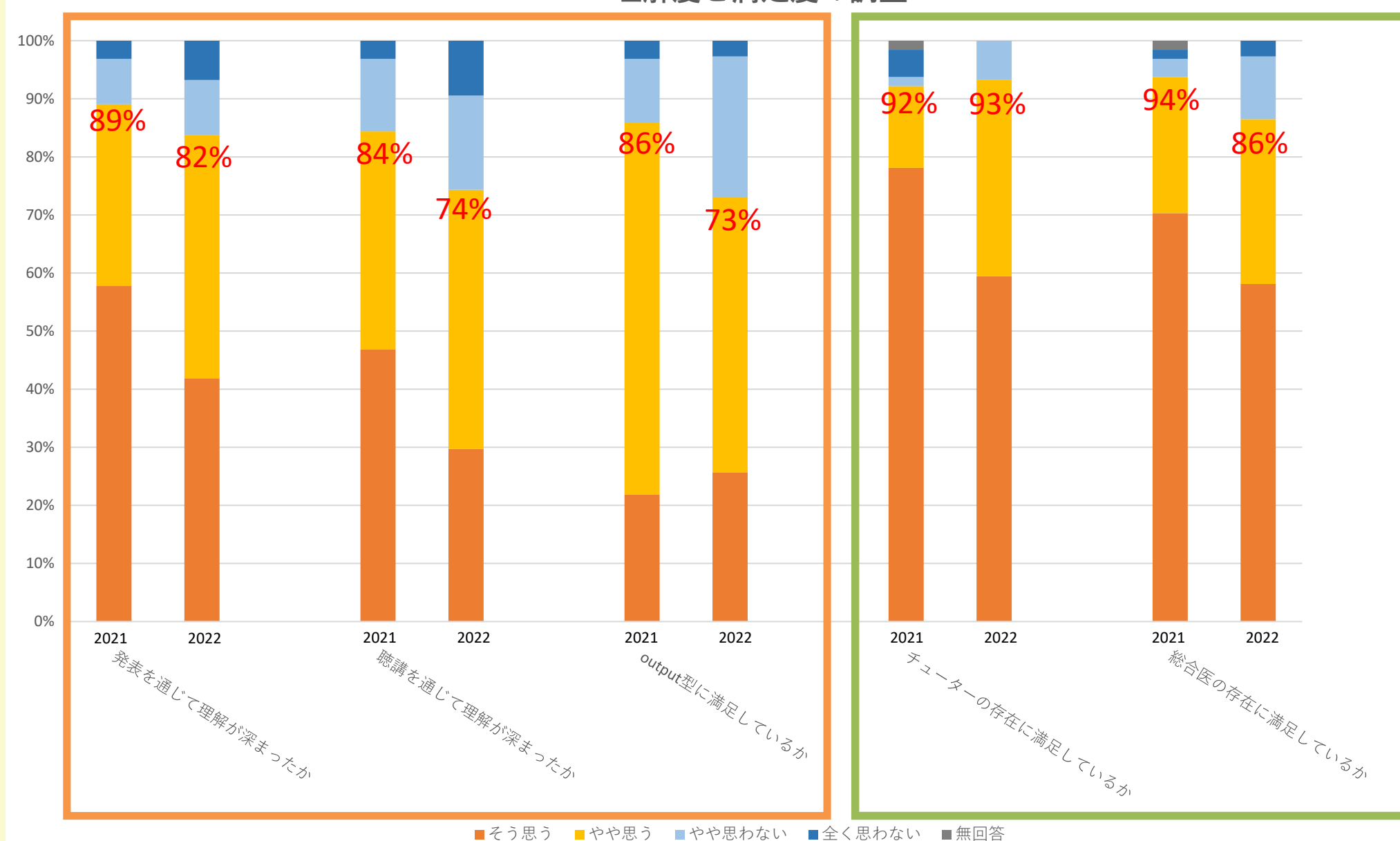
## 講義後テスト

- 講義前テストと同様の問題を出題
- 4年生 106人中57人が解答
- 講義前テスト、講義後テストの中央値はともに65点で、有意差は得られなかった

## アンケート

- Google formsを使用
- 有効回答：4年生 74/106人
- アンケート内容：理解度・満足度調査と自由記載
- 2021年度アンケート（2021年度4年生 64/99人）と比較

理解度と満足度の調査



- 理解の深まりとOutput型学習への満足度はいずれも低下した
- 聴講するよりも発表した方が理解が深まった

- チューターの存在への満足度は2年通じて高い満足度を得られている
- 総合医の存在への満足度は低下した

## Output型学習・理解に関する課題

- 実際に発表する症候は1症候のみで、講義全体としてOutput型学習とは言えなかった
- 発表を通じた症候学への理解は良好であり、理解度を高めるためにはよりOutput型学習が必要である
- 学年ごとにモチベーション、効果的な学習方法が異なる可能性がある

## 双方向性学習に関する課題

- 総合医と直接話せる機会が発表時の質疑応答の時間しかなかった
- 総合医と発表グループの間でのみ会話が進み、聴講している学生が取り残されていた
- 少人数制のディスカッション形式などを取り入れ、総合医との双方向性学習がより充実すれば満足度が向上する可能性がある

### 〈4年生の感想〉

- その都度小テストみたいなものがあればより定着するのではないかと
- チューターのアドバイスは何をしたら良いかわからない時にとっても参考になった
- CBT後の短い期間に授業を詰め込まれてモチベーションを維持することが大変
- 37症候となるとどうしても飽きてしまう
- 自班発表が一度きりで、他の時間はただ聞いているだけになってしまった
- 質疑応答が少なかったため、もう少し少人数で発表していたら質問しやすかった
- 全体で発表すると質問もしづらく双方向の学習とは感じられなかった

### 〈チューター・総合医の感想〉

- 初年度は初の試みであったため新鮮さがあり満足度も高かったが、2年目はマンネリ化していたのではないかと
- テストは講義で触れなかったものもあり、理解度を測るツールとしては有効でなかったのではないかと
- グループ間、グループ内でのモチベーションに差がありサポートが難しかった
- 昨年度のスライドを踏襲するのではなく、もっとオリジナリティに富んだ発表が生まれるとよい